

令和6年度私立学校初任者研修中国・四国地区研修会実施概要
～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実 施：徳島県私立中学高等学校連合会

会 期：令和6年7月31日（水）～8月2日（金）

会 場：徳島文理大学 徳島キャンパス2号館（徳島県徳島市）

参加人数：89名

参加対象者：鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知の各県私立中学
高等学校協会・連合会に加盟する私立中学校・高等学校・中等教育学校に
新たに採用された教員（経験者でも可）及びそれに準ずる教員

【日程細目】

第1日目 7月31日（水）

〔全体会場：徳島文理大学 アカササホール〕

12:00	受 付 ・ 資 料 配 付	
13:00	◇開会式	
	司会進行：徳島県私立中学高等学校連合会事務局	
	開会のことば	徳島県私立中学高等学校連合会 副会長 市 原 清
	主催者挨拶	一般財団法人私学教育研究所 所長 平 方 邦 行
	開催地代表挨拶	徳島県私立中学高等学校連合会 会長 村 崎 文 彦
	役員・講師等紹介	
	閉会のことば	徳島県私立中学高等学校連合会 副会長 市 原 清
13:30	諸連絡	徳島県私立中学高等学校連合会事務局
	◇講義①	
	司会・講師紹介：徳島県私立中学高等学校連合会事務局	
	演 題 「プレ22世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」	
	講 師 平 方 邦 行	一般財団法人日本私学教育研究所 所長
15:00	休 憩	
15:20	◇講義②	
	司会・講師紹介：徳島県私立中学高等学校連合会事務局	
	演 題 「神山まるごと高専の挑戦」～人口5000人の町から未来を変える～	
16:50	講 師 松 坂 孝 紀	神山まるごと高等専門学校 事務局長
17:00	諸 連 絡	
18:30	講義②終了後、宿舎の徳島グランヴィリオホテルに移動（送迎バス利用）	
	◇教育交流会（兼夕食）	
	会場：グランヴィリオホテル1階「グランヴィリオホール」	
	司会：徳島県私立中学高等学校連合会事務局	
	開会のことば	生光学園中学・高等学校 理事長 市 原 清
	主 催 者 挨 拶	私立学校初任者研修等事業検討委員 田 原 俊 典
	乾 杯	次年度開催県私立学校初任者研修地区運営委員 清 水 利 宏
20:30	閉会のことば	香蘭高等学校 校長 尾 形 志保子
	自由時間	

第2日目 8月1日(木)

[全体会場：徳島文理大学 アカサスホール]

7:00	朝食(宿舎)・移動(送迎バス利用)
9:00	諸連絡
9:10	◇講義③ 司会・講師紹介：徳島県私立中学高等学校連合会事務局 演題「情報活用能力を育む指導」 講師 泰山 裕 中京大学教養教育研究院 教授
10:40	休憩・移動
11:00	◇グループ討議Ⅰ 講義③を受けての討議 テーマ：「これからの社会で子供達に求められる情報活用能力とは？」 *分散会のグループ分けは参加者全体名簿、または分散会名簿をご参照ください。 Aグループ 指導員 市原 清 生光学園中学・高等学校 理事長 幸島 博之 生光学園高等学校 教諭 Bグループ 指導員 家城 宜希 生光学園中学・高等学校 校長 山北 栄治 生光学園高等学校 総務課長 Cグループ 指導員 堀 利明 生光学園中学校 教頭 佐近 隆義 生光学園中学校 教諭 Dグループ 指導員 竹内 薫 徳島文理中学・高等学校 校長 島田 洋二 徳島文理中学・高等学校 教諭 Eグループ 指導員 濱出 恵子 徳島文理中学・高等学校 教頭 大橋 雅利 徳島文理中学・高等学校 教諭 Fグループ 指導員 山城 喜義 徳島文理中学・高等学校 教頭 大久保芳純 徳島文理中学・高等学校 教諭 Gグループ 指導員 立石 有礎 徳島文理中学・高等学校 教諭 玉田 晋作 徳島文理中学・高等学校 教諭
12:30	昼食 [場所：各分散会会場]
13:30	◇グループ討議Ⅱ 講義①②を受けての討議 テーマ：「主体的・対話的で深い学びとは？」「創造性をいかに育むか？」 *分散会のグループ分けおよび指導員はグループ討議Ⅰと同じ。
15:00	休憩
15:20	◇グループ討議Ⅲ 講義①②③およびグループ討議Ⅰ・Ⅱを通しての討議 テーマ：「建学の精神と私学の教員として自分が目指すもの」 *分散会のグループ分けおよび指導員はグループ討議Ⅰ・Ⅱと同じ。 *16:50～17:00 分散会まとめ発表打ち合わせ
17:00	移動(送迎バス利用)・自由夕食・自主学習

第3日目 8月2日(金)

[全体会場：徳島文理大学 アカサスホール]

7:00	朝食(宿舎)・移動(送迎バス利用)
9:00	諸連絡
9:10	◇分散会まとめ発表(各グループ5分程度) ◇各県地区運営委員講評(各5分程度) 司会：徳島県私立中学高等学校連合会事務局
10:50	休憩
11:10	◇研修のまとめ =感想文記入=
11:30	◇閉会式 司会：徳島県私立中学高等学校連合会事務局 開式のことば 徳島県私立中学高等学校連合会事務局長 早 雲 洋 一 総合講評 私立学校初任者研修等事業検討委員 田 原 俊 典 主催者挨拶 私立学校初任者研修等事業検討委員 田 原 俊 典 修了証授与 私立学校初任者研修等事業検討委員 田 原 俊 典 閉会のことば 徳島県私立中学高等学校連合会事務局長 早 雲 洋 一
12:00	解散

概要 ※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

【開会式】市原清・徳島県私立中学高等学校連合会副会長より開会が宣言され、主催者を代表し、平方邦行・一般財団法人日本私学教育研究所所長より「現在の中高生が社会で活躍する 20 年、30 年後を見据えた教育をしていく必要がある。その実践を担う皆さんに大いに期待している」と挨拶があった。また、開催県を代表し、村崎文彦・徳島県私立中学高等学校連合会会長より、「教育とは、誰か一人ではなく多くの人間が関わって充実させていくものであり、本研修会は、他県の私立学校の仲間と交流できる貴重な機会である。実りある 3 日間となるよう祈念する」と挨拶があった。



村崎文彦氏

【講義 1】「プレ 22 世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」／

平方邦行・一般財団法人日本私学教育研究所

平方講師は、日本における私立学校の歴史について解説し、近年の教育の変遷について説明した。20 世紀までは『知識偏重型』であったが、21 世紀には課題解決型が主流となり、22 世紀には『未来社会政策教育』を実現していく必要があると述べた。また、2021 年に採択されたジュネーブ・ウェルビーイング憲章は教育の目標そのものであり、私学独自の精神を持続可能にするために、改めて意識を高めてほしいと訴えた。



平方邦行氏

【講義 2】「『神山まると高専の挑戦』～人口 5000 人の町から未来を変える～」／

松坂孝紀・神山まると高等専門学校 事務局長

松坂講師は、2023 年 4 月に開校した神山まると高等専門学校について、「本校は高等学校と異なり、『社会』に出て行くことを前提とした学びを展開する場であるため、 β Mentality (=「 β 版」※「試作品」の意)を推奨しているとした。すなわち最初から完成形を求めるのではなく、未完成の β 版を次々とつくりだし、あらゆる角度から検証し、想像以上に良くしていく精神である。故に「生徒達の『やりたい』を応援できる教員となることを期待する」と参加者を激励した。



松坂孝紀氏

【講義 3】「情報活用能力を育む指導」／泰山裕・中京大学教養教育研究院 教授

泰山講師は、参加者と双方向で質問や投票が可能となるクラウドサービス Slido を活用し「講義を聴いて感じたことを常にアウトプットし、他者と共有しながら参加する体験」を提供した。生成 AI の進化と普及の著しい世の中において、最大のリスクは「変わらないこと」とあり、自律的に学習する生徒を育むため、授業の在り方も生徒自ら探究的に学ぶよう変えていくことが不可欠であると強調した。



泰山 裕氏

【グループ討議 I・II・III】講義を受け、7 つの班に分かれ、3 つのグループ討議を行った。まず、「これからの社会で子供達に求められる情報活用能力」について討議し、次に「主体的・対話的で深い学び」や「創造性の育成」について討議した。最後に、「建学の精神と私学教員としての目指すべき姿」をテーマに、これまでの討議をまとめ、最終日の発表に向けて準備を進めた。



【分散会まとめ発表・講評】各グループの代表者が討議のまとめを発表し、

「各校における建学の精神を受け継ぎ、未来を見据えた教育を若手教員が率先して実践していくことで、私立学校の未来は拓けると考える」など、研修の成果を全体で共有した。また発表を受け、各県の実行委員より講評があった。

【閉会式】総合講評、ならびに主催者を代表し、田原俊典・私立学校初任者研修等事業検討委員より「私自身の経験より教育現場での課題を 2 つ挙げる。1 つは、生徒、教員、保護者との適切な距離感を保つことであり、相手や状況に応じ柔軟に調整する能力が必要である。もう 1 つは、建学の精神を生徒、教員、保護者にも理解できるよう言語化し、日々共有することである。ぜひこれらを念頭におき、教育に取り組んでほしい」と挨拶があった。また、早雲洋一・徳島県私立中学高等学校連合会事務局長より閉会が宣され、研修会を閉じた。



田原俊典氏

参加者アンケートより

講義「プレ22世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」（平方先生）

- 我々が将来的に答えのない問題に立ち向かっていく、まさにそういう人材を育成するための心構えのようなものを包括的に知ることができた。グローバルという視点は、この先もずっとついて回る概念で、世界と自ら結びつけて考えることが大切。
- 学習指導要領に書かれている「創造性」を子どもたちに養っていくためには、知識を獲得し、その知識をつないで思考、そして批判的に見るというプロセスが大切。勉強になった。担当教科の授業で批判的に見ることの活動を考えていきたい。
- 22 世紀型教育「未来社会設計政策教育」について真剣に考えていかなければならないと感じた。そして「創造性が豊かでない教師に創造性豊かな生徒を育てることはできない」という言葉が心に残っている。生徒のためにも自信の研鑽を忘れないでいたい。

講義「神山まるごと高専の挑戦～人口5000 人の町から未来を変える～」(松坂先生)

- 「支援でなく応援をする」など改めて意識して生徒に接しないといけないと感じた。また、「人と異なる選択」を応援するという話を聞き、とても考えさせられた。
- 生徒の可能性を信じる。「そっか、がんばってね」と相手の考えを受け入れることが主体的・対話的創造的な学びにつながると思った。私学の可能性、自由度に気付かせてもらい、これからの私学についても考えさせてもらった。
- 学生と関わるスタンスとして自分は今まで指導ばかりしてきたと感じた。生徒を大人として信じて、「やりたい」を全力で応援するという話は自分の考え方を変えていただけの内容だった。
- 非常に学びが多かった。成長の機会は授業の外にあることから、成長の機会もコーディネートする（カルチャー）という考え方は、学級経営にも生かせるのではないかと感じた。「失敗はない。ナイストライがあるだけ」という言葉が印象に残っている。

講義「情報活用能力を育む指導」(泰山先生)

- ICT 機器を使いこなせるようになることでのメリット・デメリットを再度理解する良い機会となった。ICTを使いこなすためには、教員に充実した ICT 研修の時間も必要になると感じた。時間のない教員にでも受けられる不安・ふたんのない事務・環境づくりも大切だと感じた。
- 便利なモノが沢山でてくることで、自分自身も考える力や覚える力が衰えていると感じることがあるが、全てが悪いのではなく、今後なくなるものがないICT と上手く付き合い、ICT、AI では計れない人情。愛情の部分を教員である自分たちが伝えていかないとけないと感じた。
- “学びつづけられる子どもを育てる”という言葉が印象的だった。教師がすべて教えるのではなく、学び方を教えることに専念する必要がある、そのためにも従来の「良い授業のイメージ」を根本から変えていく必要があると感じた。
- 情報活用能力について、新たな視点で学ぶ事ができた。これまで有効な ICT の使い方ばかり考えていたが、「学び方・調べ方を知る」ということを授業で行っていきたい。